

## 平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[ 分 類 ] 普及技術

[ 成果名 ] センブリさび病防除にアミスター20 フロアブルが有効である

[ 要 約 ] センブリさび病防除にアミスター20 フロアブルの 2,000 倍液を散布する。本剤は耐性菌の出現が懸念されるので、連用せず、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。

[ 担 当 ] 野菜花き試験場佐久支場、農業技術課

[ 部 会 ] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

センブリさび病は生産現場で常発する重要病害であり、多発すると収量に大きな影響を与える。薬用植物のせんぶりはマイナー作物であるため登録農薬がほとんどなく、生産現場では病害虫防除に苦慮している。そこで、本病を防除するため効果の高い殺菌剤を選定するとともに、せんぶりに対する薬害の有無を検討する。試験は効果および薬害について平成 17 年および 18 年に佐久支場において実施し、作物残留試料調整を平成 17 年に上小農業改良普及センターおよび佐久支場で実施した。平成 21 年 7 月に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

( 1 ) センブリさび病防除にアミスター20 フロアブルの 2,000 倍液を散布する。

#### 農薬登録内容

アミスター20 フロアブル

[ 一般名及び成分含有量 ] アゾキシストロピン 20.0%

[ 毒性 ] 人畜毒性：普通物 [ 魚毒性 ] B 類

[ 対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 9 月 24 日現在 JPP ネット確認） ]

作物名	適用病害名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
せんぶり	さび病	2,000	100～400 L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内

本試験は純粋に殺菌剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

### 3 利用上の留意点

( 1 ) センブリさび病は 1 年生株においても発病が認められ、翌春の 2 年生株においては梅雨期以降に発病の進展および拡大が著しい。したがって防除は 1 年生株から実施し、散布は 5 月からの発病前または発病初期に開始する。

( 2 ) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、連用は避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。

( 3 ) 浸透性を高める展着剤（ニーズ、アプローチ B I、ミックスパワー等）を添加すると薬害を生ずる場合があるので添加しない。

( 4 ) 幼苗期の非結球レタスに対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合は飛散しないように注意する。

( 5 ) りんごの一部品種（「シナノレッド」、「あかね」、「旭」、「きざし」、「ガラ」）に薬害を起こすので、飛散等により散布液がかからないよう十分注意する。また、本剤を使用

した散布器具やタンクを用いてこれらりんご品種へ薬剤散布しない。

4 対象範囲  
県下全域

5 具体的データ

- (1) 平成 17 年は本病の発生時期が平年より早く、試験開始時に既に発病が認められ(中発生)、調査時には甚発生となった。アミスター20フロアブルの2,000倍液は対照のジーファイン水和剤と比較して優る効果が認められ、無処理と比較して効果が認められた(表1)。
- (2) 平成 18 年は発病前から薬剤散布を開始し、調査時には中発生となった。アミスター20フロアブルの2,000倍液は対照のジーファイン水和剤と比較して優る効果が認められ、無処理と比較して高い効果が認められた(表2)。
- (3) いずれの試験においても薬害は認められなかった。

表1 センブリさび病に対するアミスター20フロアブルの防除効果(平成17年、佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
アミスター20フロアブル	2,000	30.0	47.8	19.2	79.8	なし
ジーファイン水和剤	1,000	30.0	95.6	73.9	22.2	なし
無処理	-	30.0	100	95.0		

値は3区の平均値

試験場所：小諸市山浦 野菜花き試験場佐久支場 場内圃場

品種：みまき1号 播種：平成16年4月9日 区制・面積：1区3.3m<sup>2</sup> 800株/区 3連制 発生状況：甚発生  
処理方法：平成17年7月11日、22日、29日および8月4日の4回、背負式動噴を用いて所定濃度の薬液を10a当たり300Lの割合で散布した。無処理区は同量の水道水を散布した。

調査方法：最終散布5日後の8月9日(生育期)、各反復区30株(10株×3カ所)について発病の有無および発病程度を調査し、発病度、防除価を算出した。薬害は肉眼観察による。

発病指数 0：発病が認められない 1：葉にわずかな病斑が認められる 2：多くの葉に発病が認められる  
3：株全体に発病が及ぶ 4：株全体が枯死

発病度 = ( (発病指数 × 株数) / (調査株数 × 4) ) × 100

防除価 = 100 - ( (処理区発病度 / 無処理区発病度) × 100 )

表2 センブリさび病に対するアミスター20フロアブルの防除効果(平成18年、佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
アミスター20フロアブル	2,000	30.0	0	0	100	なし
ジーファイン水和剤	1,000	30.0	53.3	18.1	62.1	なし
無処理	-	30.0	92.2	47.8		

値は3区の平均値

試験場所：東御市北部 野菜花き試験場佐久支場 場内北御牧圃場

品種：みまき1号 播種：平成17年4月11日 区制・面積：1区3.3m<sup>2</sup> 800株/区 3連制 発生状況：中発生  
処理方法：平成18年6月7日、13日、20日および27日の4回、背負式動噴を用いて所定濃度の薬液を10a当たり300Lの割合で散布した。無処理区は同量の水道水を散布した。

調査方法：最終散布15日後の7月12日(生育期)、各反復区30株(10株×3カ所)について発病の有無および発病程度を調査し、発病度、防除価を算出した(表1参照)。薬害は肉眼観察による。

6 特記事項

[ 公開 ] 制限なし。

[ 課題名、研究期間、予算区分 ]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験、平成 17、18 年度(2005、2006 年度)、県単素材開発